令和６年度第２回北海道薬剤師確保検討会　議事概要

日　時：令和６年１１月６日（水）17:00～19:00
場　所：ＡＣＵ　中研修室１６０５（１６階）（ハイブリッド開催）
出席者：別紙「出席者名簿」のとおり
議　題：別紙「次第」のとおり

議事概要（○：座長、◎：委員、●：事務局）
○　まず、（１）の報告事項（ア）について事務局からご説明願います。
●　（資料１に基づき説明。）
○　次に、（１）（イ）薬剤師確保のためのアンケート調査結果について説明願います。
●　（資料２に基づき説明。）
○　病院 141 の回答、欲しい地域ほどいただけてない。そうすると全体の表す数字が実態とかけ離れてしまう。リマインド中ということなので、必要とされる区域にプッシュして欲しい。
◎　回答病院の半分以上を札幌が占めている。札幌と地方では大分事情が違うので、分けて分析が必要。それと、病院側の情報提供が不十分。病院は給料が安い印象だが、月給では薬局が上回っているが年収ではほぼ一緒。他の調査結果でも生涯賃金でいうと、病院勤務薬剤師のほうが 500 万ぐらい高いというデータも出てるので、誤解というか病院側にも努力しなければいけない点がある。地方の病院薬剤師は、休暇は取れてないのかもしれないが、有給休暇消化率は、薬局は 10 日以内が多くて、病院は 10 日から 15 日。その辺も十分理解されてないのかと思う。薬剤師派遣出向依頼の対応可が 10%強。あまり出せないという印象を与えてしまうが、実数を見ると 91 件と 17 件。10%でもこの実数があるというところは、大事な情報。
●　調査結果については、今後、地域間の格差などについても分析して参りたい。
◎　薬剤師が充足してない地域をある程度まとめて評価いただくことが必要。給与面でも、チェーン薬局だと地方では高い手当がもらえたりというところも見えてくる可能性はあるかなと思う。
◎　病院は 3 割、保険薬局は 4 割、薬剤師全体でいうと 5 割が札幌の意見。地方の方々がアクティブに返答していただけていない。給料の話、就職説明会で学生に、最初は低いがそのうち逆転して病院薬剤師も悪くないと話をすると、初任給が少ないと、奨学金返せないという話もある。
◎　勤務先を決定した理由、うちの学生が言っていることと同じだと感じる。薬局を選ぶ学生は給与面を重視している学生が多い、病院を選ぶ学生はやりがい。給与や休暇の取りやすさは、学生も知らずに就職先を選んでいるケースが非常に多く、誤解がある。病院は大変だから、夜勤が必ずあるように思っている学生がすごく多く、必ずしもそうでもないと話をするが、実態を正しく理解して就職先を選ぶための努力が必要かなというのは結果を見て思った。薬局、病院にも協力いただきながら、学生が実態を理解して選ぶ体制を整える点を、薬剤師確保対策に盛り込んでいけるといいのかなと感じた。
◎　私の病院でも採用試験の説明会のとき、学生、給与や休みをシビアに見るので、薬局薬剤師、

病院薬剤師の平均的な給与が年次、年齢でどう変わるかデータを見せると納得する。ただし若い頃、安いのが厳しいという声はある。休暇取得も実際の薬剤師が取っている状況を見せてデータを示してあげると学生は安心する。うち、そんなに給料高くないので、やりがいを持ってやってくれる方々に集まってもらっており、そうでないともたないということも伝えてる。

◎　地域偏在、業態偏在をいかに解決するか、どんな条件でも地方部で勤務したくない理由、こういう課題に対して解決策を提示できるかも考えていかなければいけない。業態偏在、病院勤務したくない理由が挙げられているが、他都府県のアンケート、共通したものが見えているのか、或いは北海道の地域性なのか。

●　他都府県調査の実施は何件か把握しているが結果については確認できていない。国の調査結果ではほぼ同じ傾向

◎　転職経験のある薬剤師の約半数が病院を選んでいる。転職経験のある方は、薬局から病院への転職経験が約半数という意味か。

●　病院と薬局合わせての転職経験で 59.3%、病院で転職したことがある人が 35.3%、薬局で転職したことがあるのが 70.3%。勤務先は現在の勤務先を示しており、最初の就職が病院では全体で 48.1%。病院から病院に転職が 64.9%。病院から薬局に転職が 44.1%。

◎　新卒の薬剤師が最初に就職する先として、病院が 48.1%、薬局が 33.5%で病院が多い傾向。

◎　自治体や病院独自で奨学金支援をしてるのは地方で多いと思うが、返済条件クリアした段階で都市部に戻る方が比較的多いと思うので、この辺りも考慮して奨学金制度を検討したほう良い。

◎　自治体病院の会議ではあまり薬剤師の話は出ないが、年に 2 回、道南公立病院長会議があり、恵山、松前、木古内などの院長が集まっての話し合いでは、必ずと言っていいほど薬剤師が今年定年、看護師が 1 人少ない、レントゲン技師がいないという話題が出る。うちも薬剤師が常勤で 6 人いるが、一番年下が 26 歳でその上が 47 歳、入っても辞めて都会に行ってしまう。病院の給料が安いという問題があるので、そこを検討していくことが必要。奨学金制度も工夫してやっているが、返済の問題とかを解決していければいいかなと考えている。

◎　病院薬剤師への転職希望ありとの回答が 8.4%、なしが 90%以上。転職希望ありは、やりがいを求めてが多い、なしでは、年齢的な事情、健康上の問題、給料、スキルがない、だけではないと思う。医師でも今問題になっているのが、大学を卒業する学生に将来何になりたいか聞くと「直美（ちょくび）」、ダイレクトに美容形成。外科系でも産婦人科系でも結構医療事故が多く、そういうことを避けて美容形成。薬剤師の場合も、若いうちは給料が良くて負担にならない調剤薬局に行く人が多いような意見になると思う。病院に転職したくない 90%の意見をもう少し探って欲しい。

○　私自身の経験でいくと、最初は病院に勤務した、病院ではいろいろ勉強が必要、当直も。1 度病院離れて薬局に行くと、正直言って病院には戻れない。スキル不足を十分自覚しているので。その上で先ほどの給与のことだと思う。生涯賃金では病院が高いのはわかっているが、研鑽して専門資格を取ったりするのは大変ではないかと感じる。

●　（資料 3 に基づき説明。）

○　目標薬剤師数として確保すべき 122 人、そして薬学部が 340 人、適切に配置されれば解消して

しまうとは思うが、地方は高齢の方が多い。世代交代も含めて確保を図っていかなければならないと思うので、検討課題に入れる必要がある。

◎　31 ページ基本的な考え方の 5 行目、「多数区域から少数区域への薬剤師派遣など、薬剤師全般の偏在対策をそのまま病院薬剤師における対策に当てはめることは慎重を期す」の表現は、よく分からない。「派遣できるところから派遣するような対策を推進する」といった表現の方が良い。アンケートでも派遣できるところがあったので。少数区域をなくすための施策、具体的な取組の中に奨学金返済を援助する、地方就労のための基金を創設する、という金銭的な援助が書かれてないので、地域医療介護総合確保基金の活用を含め、入れ込むべきではないかと思う。

●　1 点目のご指摘、前向きな表現に改めさせていただく。2 点目、現在取り組んでいる事業については拡充も含め検討していきたい。修学資金支援事業、他府県で現在 10 件ほど取り組んでおり、道内でも 34 市町村が取り組んでいる。この計画に記載すると来年度から実施となるため、記載は難しい。他府県や道内市町村の取組状況等を含め、制度設計のあり方なども研究を続けながら、実施に向けた効果検証と新たな取組の必要性については、医療計画との進行とあわせて議論していきたい。現時点では、具体的に記載するのは難しいということをご理解いただきたい。

◎　「検討していくために議論していく」といった文言を入れないと、結局 2 年とか経って、そういうことはしないという道の方針として示すわけなので、少しでも前向きに検討していく内容を盛り込んでいただきたい。

●　「その他必要な施策について検討していく」という表現を盛り込んでおり、具体的な表現をどこまで記載できるかについては、検討させていただきたい。

◎　免許を持っていて働いてない方々は、働く意思がないのか、障壁があって解決できれば働ける方が一定数いるのか、そういう情報はあるか。薬剤師会の方で支援してるのかもしれないが、あっせんとか、働き始めるためのトレーニングとかではなく。あっせんしてるから来てくださいだけでは難しいような問題があるのかなと思い伺った。

●　潜在薬剤師へのコンタクト、把握をどうしたらいいのか思慮している。3 師統計調査の個票は厚生労働省にあり、これをもとにアクセスするのは個人情報の観点で難しい。今の段階で情報を持ち合わせていないのが実情。

◎　免許を持っていて働ける人を働ける環境にしてあげるのが大事。

○　薬剤師会でも復職支援、薬剤師バンク等運営しているが、アクセス方法が一番難しい。薬系大学の同窓会とかにアクセスをしていくのも必要か。

◎　少数スポットを定めることができるとされているが、「必要な医療を他の市町村の医療機関でカバーしている場合等があり道内における薬剤師少数スポットの設定を行わず」、つまり二次医療圏で考えるということか。（スポットの設定）良い気がするが、どうか。

●　市町村ごとになるが、線引きが難しい。医師確保計画も同様の考え方でスポット設定はしていない。まずは二次医療圏単位で検討しながら、見直しでいくことも必要と考えている。

◎　自治体病院が主導で他町村をカバーしている場合、スポットを設定して進めるのも良い気がする。まずは二次医療圏で検討し、細かいことは後と書かれるとぼやけている気がする。

● 例えば、札幌圏にも札幌市以外に当別、千歳などがあり、特別にスポット設定するということになる。札幌圏は（多数区域のため）他の圏域から薬剤師の確保は行わないが、スポット設定した市町村は、多数区域であっても確保策を実施するという考え方になるため、現時点では設定する必要性はないのではと判断をしている。

◎ 基本的な考え方で、支援いただいた少数区域が脱却して自力で頑張っているので、今度はお手伝いできることはしますぐらいになれるのが目標と思う。ある病院を支援を受けることで自分たちで行動できるようになるようなことを目標にしていただけたらと。

● ご意見を踏まえながら進めさせていただきたい。

◎ 私も、病院が派遣を受けながら体制を整えて自立していくことが目的だと思う。

◎ 10 ページと 12 ページ、薬学部卒業生の道内定着率は 8 割くらい、医師の場合も 300 何十人のうち、3～40 人ぐらいは道外に流出するが、ほぼ同数が道外から道内に入ってくる。つまり、養成数と毎年の研修医の数はほぼイコールだが、薬剤師は流出一方なのか。

◎ どれだけ戻っているかのデータは持ってなく、卒業生はそれだけ追えていないが、出て行った分と同数が戻ってきているのは考えにくい。

◎ そこで施策についてですが、長期施策と短期と分けるべき。書かれているのは主に長期施策。明日から困るというところもあるので、臨時的医師派遣制度みたいな或いは薬剤師バンクをもう少し充実するなどが必要。地方に行きたくない理由に、休みが柔軟に取れないというのがあった。薬剤師が多い病院であれば急な休みでも何とかなるが、2～3 人の病院だと難しいので、緊急的に 1 日とか 2 日出せるようなバックアップシステムが必要。それから、生産年齢人口が減ってる中で薬学部だけ増やすことはほぼ不可能。日本の薬剤師の養成数はＯＥＣＤ平均の 2 倍以上。薬剤師の業務見直しがこれからのテーマと思う。欧米並みに助手を採用など、国のマターだと思うが。あとは修学資金の問題、医師は、年間 200 万ぐらい、6 年間で 1200 万ぐらい道が出している。それで 33 人ぐらいの枠があり 3 億 6000 万ぐらいの年間予算。金額の問題はあるが、道にこれ以上出せというのはなかなか難しいのではと思う。病院や自治体が修学資金制度を実施しているので、その辺をもう少しまとめることも必要かと思う。あとは、派遣した病院から、一定のあっせん料をいただいて財源にすることも検討してください。

◎ 厚労省の基本的な考え方として、地域医療介護総合確保基金を修学資金支援制度や薬剤師派遣費用として使ってもいいとされているので、それを明記していただきたい。事務局も言われたように、まずは素案の議会承認を取り、それから予算取りをするということで。また、給与水準見直しを図るとあるが具体的な取組は書かれてない。給与水準の見直しは非常に難しく、簡単に上げられるものではない。短期的なところとして薬剤師の出向支援や派遣。多い病院から不足している病院への支援をもっと強力に。そして病院薬剤師の確保に日々頭を痛めているが、34～35 ページの必要な取組で環境の改善、センターに相談して助言をいただくことが効果を奏功するか疑問。人が来ないのであれば対物業務を機械化、その導入支援も基金が使えるので、薬剤師の本来業務に人材が確保できるよう、計画の中に記載いただければと思う。

● 短期的な派遣、長期も含め、取組の拡充を検討している。薬剤師の役割が対物業務から対人業

務へシフトしていく中、必要な機械の導入補助について、現時点では来年度からとは考えていないが、勤務環境の改善や給与水準の見直しなどを踏まえてという記載を残しておくことにより、次のステップでの対策に繋がっていくと考えている。頂戴したご意見を踏まえ、可能な範囲で調整して参りたいが、基本的な考え方についてはご理解いただきたい。

◎　26 ページの具体的な取組の一番上、将来の薬剤師の育成支援。我々もすごく危機感を持っているところで、道内 3 大学定員 370 だが、370 の入学者を確保するのはかなり厳しい状況。うちも数年前に数十人定員を割った。全国では募集停止の薬学部も出てきており危機的な状況。1 大学だけで取り組むのも難しいのでオール北海道で、薬剤師の魅力を伝え、青少年の薬剤師育成に力を入れていくことも必要と思っているので、具体的に、薬剤師会、病院薬剤師会、大学などというのを入れていただきたい。小さいころから薬剤師に憧れる子供たちを増やしていけたらいいのかなと思う。

○　薬と健康の週間イベントが各地であり、分包機を使ってお菓子を分包などすると結構皆さん来られる。大学とも連携して様々な機会を作っていければと思っている。

◎　道外薬学部に行った方をどのように北海道に戻すか。その辺も大事な問題。

◎　当院で毎年、4～6 人ぐらいの新人が入るが、道外の大学に行った道内出身者の受験者は、毎年 2～3 人。受験者の割合にしたら 2 割くらい。

○　薬剤師会でも、新たに会員になる先生方 10 人のうち 1 ～2 人は道外の卒業生、全くないわけでもない。北海道に来てそのまま残る方もいるし流出だけではないと思う。

●　今後の予定等を説明して終了。